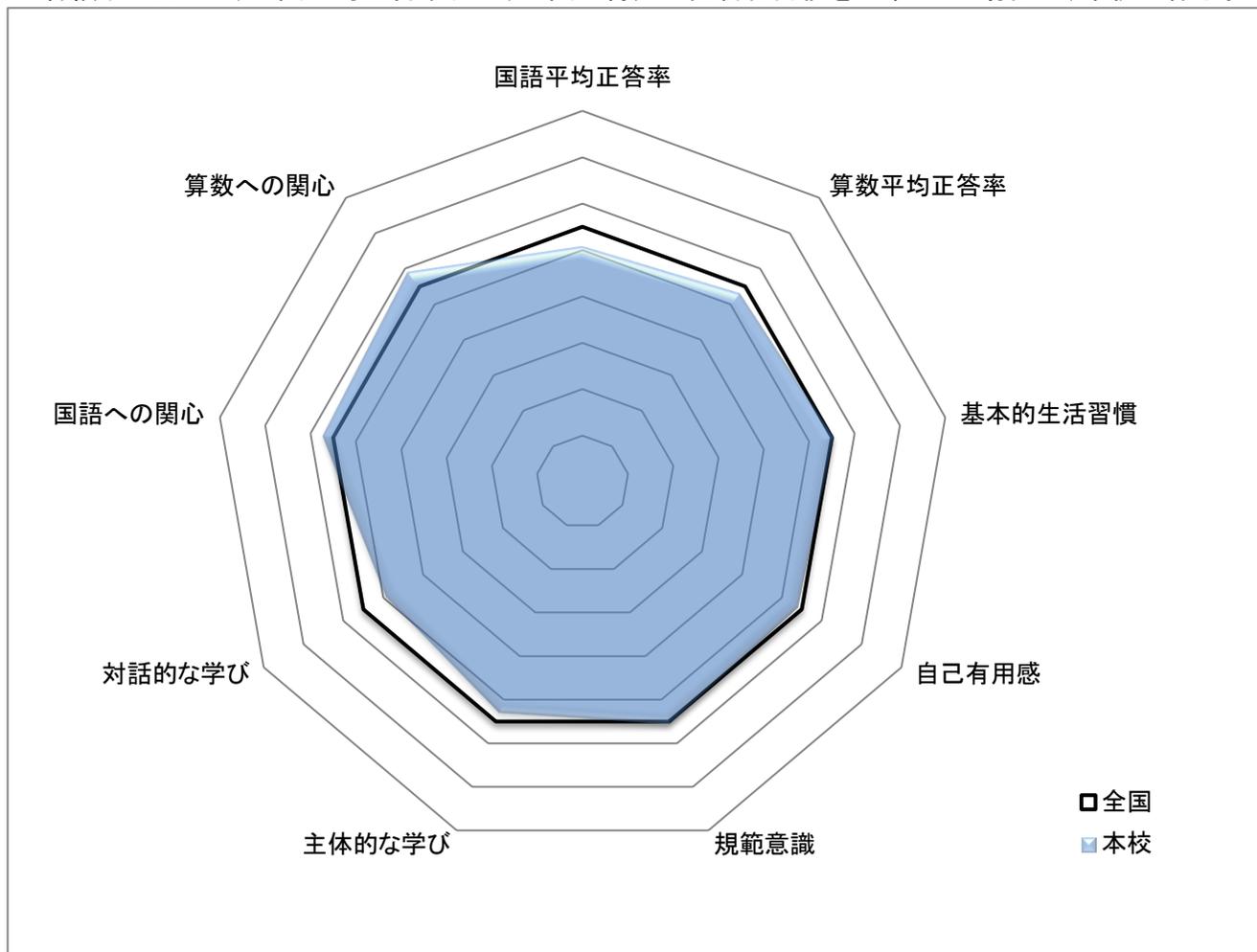


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【成果】
 ・国語、算数ともに「図や表から読み取ること」ができています。
 【課題】
 ・国語、算数ともに「好き」「まあまあ好き」という児童が全国を上回っているが、この肯定的な児童の「やる気」が学力定着に結び付いていない。
 ・日常よく使う漢字(「競技」「投げる」等)であっても書ける児童が約30%と少ない。
 ・国語、算数ともに考えたことを上手に表現(特に「書く」)することができる児童が少ない。

《授業改善のポイント》

【国語】
 ・漢字や語彙等に触れながら、漢字や語彙力等の定着を図る。
 【算数】
 ・「めあて」を明確にし、1単位時間の中で「自力解決」「学び合い」「適用問題」まで確実に取り組む授業づくりをする。
 【国語・算数共通】
 ・自分の考えやその理由を表現することを授業で取り入れていく。
 ・対話的な学習を多く取り入れた授業づくりをし、その中で友達の考えに触れながら思考力や表現力の向上を図る。
 ・児童が「できた！わかった！楽しい！」と思える授業改善をする。

《チャートの特徴》

・「国語への関心」「算数への関心」は、全国に比べて上回っている。
 ・「国語平均正答率」「算数平均正答率」は、全国に比べて下回っている。
 対応策→基礎・基本の力の定着
 ・「対話的な学び」「主体的な学び」は、全国に比べて下回っている。
 対応策→主体的・対話的な授業づくり
 ・「自己有用感」は、全国に比べて下回っている。
 対応策→「褒めて育てる」とともに「認めて育てる」教育の実施

《家庭・地域への働きかけ》

・学力向上には、家庭の協力が欠かせない。この結果を保護者会等で伝え、学校と家庭及び地域が協力して学力向上を図れるようにしていく。
 ・学力向上を図るためには「ICTの活用」は欠かせない。家庭学習期間において、一問一答形式のミライシードを家庭で取り組むようにする。